

藻採集の諸注意, 又此等を保存する方法, 薬品等に就いても行届いた記載, 注意等が述べられている。従つて本書は特に熱帯及び亜熱帯の地方の海藻に関心をもつ者にとつては不可欠の参考書であることは言を俟たないが, 又一般藻類に興味を有する者にとつても頗る有能な指導書ということが出来る。価格は米価 19.50 ドルである。

(山田幸男—北海道大学理学部植物学教室)

学 会 録 事

会 員 移 動

(昭和 35 年 8 月 16 日より 12 月 15 日まで)

新 入 会 (16 名)

住 所 変 更 (8 名)

退 会 (1名)

早 栗 操

12月15日現在会員数 342名

本学会評議員会記事

本会第8回総会に先立つて当日午後5時30分より6時まで、同場所2階会議室に於いて本会評議員会が開催された。

出席者：(A) 評議員—時田 郁 (北海道), 新崎盛敏 (関東), 瀬木紀男 (中部), 広瀬弘幸 (近畿), 猪野俊平 (中国・四国), 瀬川宗吉 (九州), 生駒義博 (推薦)。

(B) 会長—山田幸男。(C) 幹事—中村義輝, 舟橋説往。(敬称略, 順不同)

欠席者：木下虎一郎 (北海道), 黒木宗尚 (東北), 片田実 (関東), 八木繁一 (推薦) の各評議員 (黒木・片田両評議員は瀬川評議員に委任した)。

全評議員11名中7名出席更に2名の欠席評議員の委任を加えて下記の事項につき意見を纏めた。

1. 推薦評議員として生駒義博, 八木繁一両氏を推薦したい旨山田会長より発言これを了承する。

2. 昭和34年事業年度内に於ける庶務・会計報告の原案を舟橋幹事より説明これを承認する。

3. 機関雑誌「藻類」の英文略名につき広瀬評議員提案の原案につき討議した。

4. 本会の会費は他学会に比して低廉と思われるが値上げの時期にきているのではないかとの意見があつたが, 当分現状維持ということにした。

5. 国際藻類学会の成立につき会長より説明があり, 雑誌の発行は不定期, 会費は年2.80ドル (1ポンド, 邦貨約1,000円) であること等の大要が明らかにされ, 何れ同学会から会員各自に連絡があると思うから我邦の藻類学会会員多数の入会を希望する, 尚その案内状にもあると思うが我邦の世話人には会長がなつているので, 入会申込書, 会費を添えて申出ありたい, 一括して手続をとるとの説明があつた。

6. その他。「藻類」のバックナンバー, 合本用バインダーとして, 例えば雑誌「遺伝」の場合は1個100円位で求められる様だが, 本学会でもその採用を検討してはどうかということになり, 新崎評議員にその詳細につき調べて戴こうという要望事項があつた。

本学会第8回総会記事

本会第8回総会は、日本植物学会第25回大会第2日目の去る11月3日午後6時より約3時間に亘り大阪大学医学部附属病院恵濟団大ホール（大阪市北区中之島）に於いて開催された。出席会員は53名に達し下記の順序で会が行なわれた。

1. 開会の辞： 中村幹事より定刻より10分程遅れたが直ちに第8回総会を始めた旨の挨拶があつた。

2. 会長の挨拶： 茲に本会も第8回目の総会を多数会員の出席のもとに開くことができたことは慶ばしい、又本夕これより上映される映画「マリン・スノー」は会員津村孝平氏の御助力によるものであり、そして本会合開催準備に努力された地元会員に対してその労をねぎらう旨の挨拶があつた。

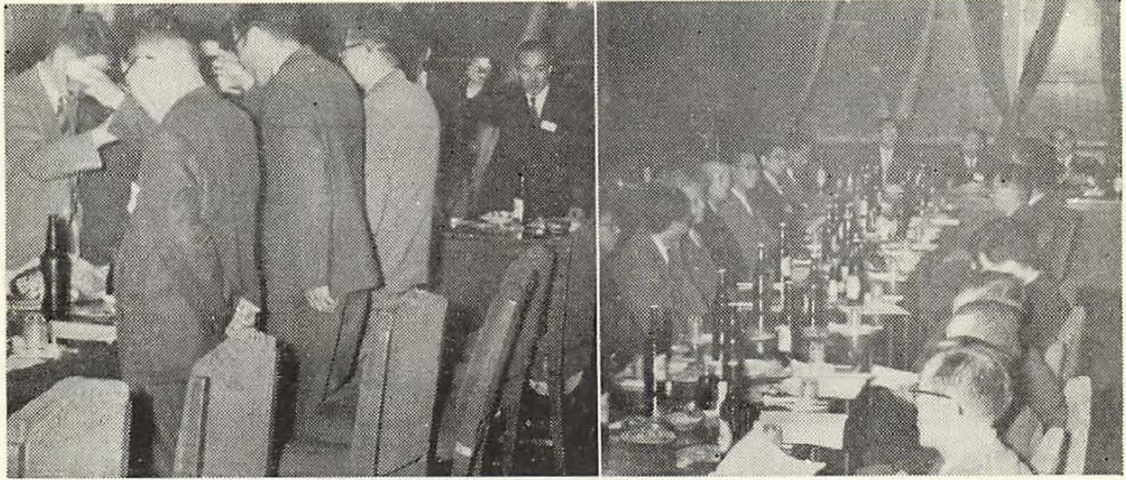
3. 議長選出： 慣例により地元会員中より今堀宏三氏が選出された。

4. 庶務・会計報告： さきに本誌第8巻第1号末頁に印刷した昭和34年度報告（自昭和34.4.1至35.3.31）に基づき、舟橋幹事が報告し承認を得た。又昭和35年4月以降の中間報告を行なつた。即わち総会当日までの新入会者をも含め11月3日現在の会員数は339名であることが明らかにされた。そして昭和35年度分の会員の会費納入状況は凡そ2/3納入済であり、残余は12月発行の「藻類」8巻3号に、未納者に通知書を同封して納入を促し、御協力をねがえれば、会の運営にも支障を来たすことはないという見解に達した。

5. 推薦評議員： 予ねて保留されていた推薦評議員について、本席上山田会長より生駒義博、八木繁一の両氏に依嘱したい旨の発言があつた。これは昨年度の仙台市東北大学に於ける第7回総会に於いて、会長が外国出張のため不在につき、推薦評議員の指名及びその時期につき会長に一任し、改めて総会の承認を要しないという申し合わせになつていたものであるが、今回この総会の席上山田会長より発表されたものである。これで各地区別選出評議員9名に、推薦評議員の上記2氏を加え、本学会の全評議員数は11名となつた。

6. 国際藻類学会： 国際藻類学会の設立につき山田会長より説明があり、雑誌の発行は不定期、会費は年額2.80ドル（1ポンド、邦貨約1,000円）であること等の大要が明らかにされた。何れ会員各個宛案内があると思うが、本会会員多数の入会を希望したい、尚その案内状にもあると思うが我国の世話人には会長がなつているので、入会申込書及び会費を添えて申出ありたい、国内会員の入会希望者を一括して手続をとりたいとの説明があつた。

7. その他： 次いで質疑応答に移つたが、会員中沢信午氏より「藻類」の論文に英文題目及び摘要があるが、これを別刷にした場合に出典が不明となるが、これに対して出典を示す方法、例えば脚註にでも「藻類」の英文略名称、巻、号をつける等を考慮してはどうかとの発言があり、会員各位の意見が沢山あつたが結局編集部一任ということになつた。



日本藻類学会第8回総会・懇親会の様子 (於大阪大学)

—— (ここで総会を打ち切り6時30分より懇親会に移つた) ——

8. 懇親会: 司会者広瀬弘幸氏の名司会のもとに会食がつづけられた。次いで7時より東京シネマ作品(1960)イーストマン・カラー「マリン・スノー」—石油の起源—全3巻を上映した。出席者一同多大の感銘を受けた。

映画終了後7時30分より会員の自己紹介に先立ち、この席上にその著書“A Bibliography of Eastern Asiatic Botany”で知られている E. H. WALKER 氏が姿をみせ、彼自身の多年に亘る努力の結晶「東亜地域の植物学文献目録増加訂正の部」脱稿の説明があつた。同氏の退席後、座席順に自己紹介にうつり極めて和やかな雰囲気のもとにひとときをすごした。また当日新しく入会された江越千代、千葉尚二、西沢一俊、岡部作一の4氏も出席、会員に紹介された。かくて極めて盛会裡に9時15分今堀宏三氏の音頭のもとに乾杯を行ない散会し、用意されたバスに同乗し夫々の宿舎に帰投した。最後に本会合開催に当り格別の御世話をいただいた地元会員広瀬弘幸氏、今堀宏三氏を始めその教室員各位に深謝いたします。又映画上映のため御尽力下された会員津村孝平氏、東京シネマ社並びに当日会の様子を撮影・寄贈下された会員深瀬峯氏に厚くお礼を申し上げます。

(後記) 本会評議員瀬川宗吉氏は当夜の評議員会に出席、引きつづいて行なわれたこの総会の席上、会計に関する質問後2—3分を経て突如倒れ、直ちに阪大病院北病棟2階の第5急救室に入院されました。併し意識恢復することなく翌4日午前1時25分脳軟化症のため永眠されました。茲に深く哀悼の意を表して記事を終ります。(舟橋幹事記)

総会出席会員

秋山 優	猪野 俊平	大房 剛	田中 剛
新崎 盛敏	入来 義彦	岡部 作一	建 武
千葉 尚二	岩崎 尚彦	奥野 春雄	津村 孝平
江越 千代	加崎 英男	佐々木 正人	時田 敏

長谷川 由 雄	川 端 清 策	佐 藤 正 己	徳 田 広
平 野 実	熊 野 茂	瀬 川 宗 吉	梅 崎 勇
広 瀬 弘 幸	中 村 義 輝	瀬 戸 良 三	山 田 幸 男
深 瀬 嶽	中 沢 信 午	須 賀 瑛 文	山 田 家 正
舟 橋 説 往	西 林 長 朗	瀬 木 紀 男	山 岸 高 旺
生 駒 義 博	西 沢 一 俊	末 松 四 郎	山 本 俊 夫
今 堀 宏 三	野 田 光 蔵	曾 塚 孝	柳 進
今 津 達 夫	野 沢 治 治	沢 田 武 男	吉 田 忠 生
稲 垣 貫 一	尾 形 英 二	高 松 正 彦	吉 田 啓 正
吉 田 辰 男			(ABC順)

本学会所蔵の雑誌及び論文別刷目録

(1959. 12. 1~1960. 11. 30 間に受領せしもの)

別 刷

- TAKEMOTO, T.: Kanic acid.
- TAKEMOTO, T.: Pharmazeutische Studien über die Bestandteile von *Chondria armata*. Jap. Jour. Pharmacy & Chemistry, Vol. XXXI, No. 8.
- KOSTER, J. TH.: Groene wierballen in Nederlandse plassen. De Levende Natuur, Jaargang 62.
- 津村孝平: 珪藻類の顕微鏡用標本について (I). 植物趣味, Vol. 20, No. 3 (1959).
- 津村孝平: 珪殻鞭毛虫類図説. 横浜市大論叢, Vol. 11, No. 1 (1959).
- 三木寿子・山岸秀夫: 植物細胞に対する凍結乾燥法の利用. 植物学雑誌, Vol. 73, No. 859 (1960).
- 須藤俊造: アサクサノリの室内培養への方法について. 水産増殖, Vol. 7, No. 3 (1960).
- : スケルトネマのための人工培養液. 水産増殖, Vol. 7, No. 2 (1959).
- : 養鰻池の *Microcystis* sp. の培養について. 水産増殖, Vol. 7, No. 2 (1959).
- 農林水産技術会議: 魚食性底魚類の食性に関する研究. 農林水産技術会議研究成果 2 (1960).
- 津村孝平: 珪藻類の顕微鏡用標本について (II). 植物趣味, Vol. 20, No. 4 (1960).
- : 珪藻類属名語原注解. 横浜市大論叢, Vol. 11, No. 2 (1960).
- 千葉大学文理学部: 銚子臨海研究分室.
- 福島 博: 淡水藻類学に関する参考書 I. 横浜市大学論叢, Vol. 9, No. 2.
- : オングル島の淡水藻類 (予報). 横浜市大学論叢, Vol. 10, No. 2.
- 千葉大学文理学部: 銚子臨海研究分室研究報告 (1959).

- 谷口森俊：大阪湾沿岸の海藻群落学的研究. *Acta Phytotax. Geobot.* Vol. XVIII, No. 2-3.
- ：志摩英真湾の海藻群落. *日本生態学会誌*, Vol. 10, No. 3 (1960).
- ：相模湾沿岸の海藻群落学的研究. *日本生態学会誌*, Vol. 10, No. 2 (1960).
- ：有明海三角附近の潮間帯海藻群落. *医学と生物学*, Vol. 49, No. 4 (1958).
- ：別府湾豊岡附近の海藻群落. *医学と生物学*, Vol. 49, No. 5 (1958).
- ：土佐、浦内湾の海藻群落. *医学と生物学*, Vol. 52, No. 1 (1959).
- ：青森県深浦の海藻群落. *医学と生物学*, Vol. 53, No. 4 (1959).
- ：岡山県下津井附近の海藻群落. *医学と生物学*, Vol. 55, No. 4 (1960).
- ：香川県志度の海藻群落. *医学と生物学*, Vol. 55, No. 6 (1960).

雑 誌

- Acta Biologica Venezuelica*: Vol. 2, Art. 29-Art. 35.
- БОТАНИЧЕСКИЙ ЖУРНАЛ: Том. 44, No. 5-Том. 45, No. 7.
- 海洋与湖沼: 第2巻, 第3期.
- 日本菌学会会報: Vol. II, No. 2-Vol. II, No. 4.
- 水産庁内海区水産研究所研究報告: 第13号 (87-93).
- 横浜市立大学紀要: No. 112, Ser. C-31.

単 行 本

- 広瀬弘幸: 藻類学総説. 内田老鶴圃 (昭和34年).

本会評議員 瀬川宗吉氏は去る11月4日脳軟化症の為大阪に於いて突然逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

日本藻類学会